

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakatsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポルケ谷九〇四 電話(03)3337714649 FAX(03)329915367
振替 〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額 700円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

安全の担保

小林 誠一……………2

職場、国鉄闘争支援、地域ユニオン

千葉 明男……………3

―国鉄闘争支援で学んだこと―

「維新」は地獄に導く

山下 けいき……………4

―西郷隆盛、大久保利通に比べ空っぽの大阪維新―

現代の「魔物」問題系

花井 吉宅……………5

◇資料と解説◇

長期的視点から作成

編集部……………6

日本経団連『経営労働委員会報告』

◇資料1◇野田内閣への要望(日本経団連二〇二二年一月一六日)

社会保障・税一体「改革」、そしてTPP……………7

◇資料2◇二〇二二年版経労委報告(二〇二二年一月二四日)

危機を乗り越え、労使で成長の道を切り拓く……………8

組合員数一千万人割れ……………9

―厚労省「労働組合基礎調査」から―

サマータイム問題多し 実施反対

兵庫県職員組合……………10

ハイサイ!今回は「ウチナーヤマトグチ」に挑戦!

毛利 孝雄……………11

―オキナワだより④―

読者からのおたより……………13

旬刊 社会通信

NO. 1114

二〇二二年二月一五号

二〇二二年二月一五号発行
(毎月一日・一五日二回発行)

安全の担保

東京電力福島第一原発災害に思う

東京電力福島第一原発による災害は拡大する一方で、依然として収束の目処が立たない状況が続いています。そして政府筋からは完全な廃炉のためには、数十年の時間が必要との見通しが語られる事態となっています。利用する原子核が固有の半減期を持つ以上、放射能事故の根本的な解決は時間―それも万年単位の一の経過しかないことは自明の理です。あえてこのことに触れずにきたのがわが国の原子力政策でした。

そしていったん事故が起こった際、その対処には人力で当たるしかないことを今回の事態は明らかにしました。しかしこのことはずっと以前から、原発の利益から距離を置いた科学者やジャーナリストによって指摘されてきています。原発の運用開始以来おこなわれている定期点検も下請け・子請け・孫請けの労働者の被曝を伴う危険な作業によって成り立っています(樋口健二氏をはじめとする原発労働者関係の書籍をぜひお読みください。今回の事故以前に書かれたものがお勧めです)。

列車事故と電車運転士、航空機事故と乗務員、炭鉱事故と坑内作業員。ここに列挙した事例の共通点は明白でしょう。いったん事故が起こればもともと危険に直面するのはそこを職場とする労働者です。したがってもともと危険に敏感になるのも労働者です。その職場での声が汲み上げられなくなったとき重大事故が発生します。三井三池炭鉱の爆発事故、JR西の福知山線事故など。

今回の原発事故では電力会社や電気産業の労働組合の姿がまったく見えてきません。現場で被曝しつつ作業する労働者に対する、健康被害に対する心遣いも伝わってきません。電力会社の労働組合である電力総連出身の参議院議員の発言を聞くと、東電の社長とまったく同じことをさらに露骨に表現しています。

電力会社にしても鉄道会社にしても起こしたくて事故を起こすわけではありません。しかし株主に利益をもたらす責任がある以上、安全に対しての投資は利益とのバランス―事故が起こったときの保証金のほうが安ければこちらを取る選択も含めて―を考えざるをえません。反対に、まっとうな労働組合であれば組合員の安全を収益とは関係なく要求することでしょう。ここで双方の綱引きとなり、そのときの力関係で安全に対する投資額が決定されます。最初から労働者の側は安全に対する要求をしないならば、防げる事故も防ぐことができなくなるでしょう。

「反対のための反対」をするといつてかつて社会党や総評といった組織が揶揄(やゆ)されました。原発の重大事故を経験した現在から振り返って、これらの組織は本当に不要だったのでしょうか。改めて考える意義は十分に思うように思います。

(医師 小林誠一)

職場、国鉄闘争支援、地域ユニオン

— 国鉄闘争支援で学んだこと —

印刷局の職場 一九七二年岩手県から東京に出てきて、大蔵省印刷局(当時)滝野川工場に採用され、働いています。八年前の経営形態変更で「独立行政法人国立印刷局」(公務員型)になった。港区に本局、一都四県に七つの工場がある。北区には滝野川・王子の工場があり、滝野川支部は、工場と隣の病院を含めて三〇の分会があり、組合員数は一〇四一名。職場は、日銀券や収入印紙、八〇円切手の印刷などをしている。労働時間は八時間で有給の休息時間があったが、みんなの党の国会質問で廃止された。二〇〇九年からは七時間四五分。賃金は年功序列型で自動昇格制度(役職につかなくてもAからGへ五八歳まで)がある。ただし管理者には一部、評価制度(A〜D)が入られている。協約は、団交や賃金体系・休暇に関するものから「長期雇用安定協約」もある。この五年間で、時間内通院が時間休になったり、読売新聞の攻撃で勤続年数による表彰金がなくなり、自民党から年三日のレク休暇が廃止されたりした。

労働組合 労働組合の特徴では、ストライキは七八年春闘が最後。その当時から、抵抗型の運動から政策提起型の運動にしようという動きがあったが、一九九六年橋本行革の中で印刷局の経営形態変更問題が始まり、労組で大衆行動や要請行動をした翌年、全印刷結成五〇年の記念大会で方針転換した。

五年に一回、独立行政法人の見直しがあるので、安心して働けるために、国の直轄事業へ見直しさせようという取り組み、たとえば民主党六〇〇七〇名の政策議員懇談会を作る等を三年前からしている。当局は日銀券について「日銀がセキュリティ強化を要請しているから」の理由で機械化を提案してくるし、証券では「民間にとられないために合理化はやむをえない(ふるさと切手は凸版印刷へいつている)」と攻めてくる。組合員(オープンシヨップだが組織率はほぼ一〇〇%)は、意見を言ってもしようがない、役員は聞いたふりしてやってくれない、という人が多い。集団交渉は毎年やっているが、「こうしてもらえないでしょうか」と、願いの発言がかなり多い。

自分は「少数派」という気持ちから組合員に話す時も遠慮がある。本部の方針は「都合がくだから」という組み立て方が多い。三・一一のあとの「電力使用制限令」で一五％節電しようと、平日一日休で土曜出勤となった。「電力は足りている」と交渉でも発言したが、組合内にすり込まれた「電力不足」を覆すのは難しいと感じている。

国労との関わり 私の実の兄が国労組合員でした。私が中央の青年部役員をしていた時(一九七六〜八二年)は、当時の歴代の国労青年部長と交流させてもらった。北区の青年共闘運動でも春闘時には保線区などと交流した。分割民営化で、国鉄から三四名が滝野川工場へ来ている。九割が国労組合員で、飲んだ機会に、国鉄時代に比べると団結は弱いなあ、と指摘されたことがある。

分割民営化後は、「連帯する会」のニュースを配布したり、闘争団と交流したり、四党合意は許さない行動に参加したり、「人らしく生きよう」の上映会をしたり、北

部労協で講演会を取り組んだりしてきた。

地域労働運動Ⅱユニオン運動 北区では兵庫県に学んで一九九九年に地域労組を作ったけど二〇〇三年頃から開店休業になった。二〇〇八年練馬の経験を聞いて「北区地域ユニオン」として再出発した。どんな相談があったかというのと、北区職員の病休を理由にした退職強要（職場復帰）、都市再生機構清掃業務での退職強要（金銭解決）、派遣清掃業務での職種転換強要（派遣元と団交をやったが退職）、スーパー警備での退職強要（契約更新、就業規則を作らせた）、火災保険代理店での賃金未払いと処分（団交を求め闘争中）、ダイワハウス子会社清掃業務での退職強要（東京地労委あつせん不調で闘争中）、病院駐車場管理での全員解雇（金銭解決）・・・

三年間やってみて思うのは、自分の所属する労働組合の中だけの企業内の発想だけではユニオン運動は太刀打ちできないということ。自分は工場の塀の内外で頭を切り替えているつもりだが、工場の中では視野が狭いと感ずる。また、「職場復帰」は難しいとも感ずる。相談された方はいじめられたりしているのも、もう職場には帰りたくないとなつている。もうひとつは、一緒に団交に出たり、宣伝行動して、一緒に成長しないといけない。役員は代行してはいけない。月の組合費五〇〇円さえ払えば解決してくれると思いがちで「相談しました。あとはユニオンの役員さんお願い。」ではその人の成長につながらない。相談に来る人は嫌だったことを一杯しゃべる。こちらに気持ちの余裕や法律知識も必要だ。

（千葉 明男）

「維新」は地獄に導く

―西郷隆盛、大久保利通に比べ空っぽの大阪維新―

大阪では橋下・維新が選挙で勝てば自分が民意だ、独裁の何が悪い、批判は許さないと、したい放題になってきました。国政進出も「震災は天罰」の石原都知事らと組めば最悪政党の誕生となります。変えたいと思つて維新を支持した人待っているのは、残念ながら更なる競争と自己責任のストレス社会、格差と貧困の拡大に思えてなりません。当然ですが世の中は他者への幻想ではなく、主権者として自ら考え自ら動かなければ良くなりません。

わが街茨木（大阪府）でも「維新」を騙る（かたる）者たちの動きが伝わってきました。

どこの看板が選挙に有利か、自らのみじめな実像を覆い隠すマントとして「維新」をまとう者たち。勢いだけではないでしょうが、民主から自民、自民から維新と選挙のたびごとに看板を塗り替える議員もいます。

さて本来、維新の意味は革命を意味し、権力のありようを根底から変えるものですが、大阪維新を騙るものたちはぬくぬくと肥え太つたものばかり。彼らの「維新」とは今の金持ち、権力持ちが更に肥大化するためのもので、看板に偽りどころか、天国と言いながら地獄に導くようなものです。歴史的に「維新」と言えば「明治維新」ですが、その三傑の二人が薩摩の西郷隆盛や大久保利通で、今でも私たち鹿児島人の大きな誇りです。中でも西郷さんの人気は絶大で、県外の人には理解できないほどのものがあります。その西郷隆盛の言葉をいくつか取り上げました。今、維新の看板を騙る者たちの品性とは対極のものばかり。爪の垢（あか）でも煎じて飲んでほしいものです。

- ・「人を相手にせず、天を相手にして、おのれを尽くして人を咎（とが）めず、我が誠の足らざるを尋ねべし」

・「急速は事を破り、寧耐は事を成す」

・「己を利するは私、民を利するは公、公なる者は榮えて、私なる者は亡ぶ」

・「命もいらす、名もいらす、官位も金もいらぬ人は、始末に困るものなり。この始末に困る人ならでは、艱難をともにして国家の大業は成し得られぬなり」

（茨木市議 山下 けいき）

現代の “ 魔物 ” 問題系

社会通信一一二号の巻頭言に、ナショナルセンターの一つ『連合』の方針が紹介されていた。その姿は、日本経団連の一室から、傘下の労働者に「グローバル資本に献身しようよ」との檄を飛ばす「労資一体」そのものである。

これは、星条旗の五十一番目の星に「日の丸」を染め、米帝一属国となり果てた日帝の姿でもある。

橋下大阪市長が、五周年遅れのトッププランナーよろしく、そのネオリベ・市場競争原理の派手な推進ぶりがマスメディアによって脚光を浴びている。

昭和史の研究でも著名な作家、半藤一利氏が一月六日付朝日で、3・11大震災・フクシマ原発事故を「第二の敗戦だ」と表現していた。これは十五年戦争の敗戦8・15に続くものだという含意である。戦後このかた六十六年間、われわれの国家と社会は、経済成長至上主義という麻薬と、原発安全神話に踊らされてきた、その無惨な帰結という意味での「敗戦」ということだろう。以上、三つの事例は一見別個のようだが、ある視座にたてば、全く同じ問題系なのだ。

私はこれを〈魔物〉問題系と呼ぶことにする。すなわち、人間の脳が生み出した三大魔物のうち、最後に出現し今や地上全域でのし歩いている。陸の怪獣ビヒモス（旧訳に登場）になぞられる「資本主義」そのものから、膿のように吹き出している問題系だった。（因みに、あと二つの魔物は海の怪獣リヴァイアサン＝国家と、宗教。いずれも手に負えない、謎めいたもの）

この〈魔物〉問題系の中味、内包概念は、これまでも様々にも語られてきた。列挙すると、恐慌（一九三〇年パニック。その後戦争への引き金）、金融詐欺暴走（リーマンショック）、ソ連崩壊後の資本主義の先祖帰りとしてのネオリベ・グローバル資本の世界化、原子核エネルギーやコンピュータ・情報工学の利用、国際化。

イデオロギー的には、市場競争至上主義の徹底、能力主義的な選別と格差拡大、弱肉強食・勝ち組負け組の社会的ダーウィニズムの浸食などである。

その結果、社会や国家、人心はどうなってしまったのか。十四年連続三万人超の自殺者、非正規の激増と雇用劣化、不況、学校選択制の導入による小中現場での競争原理による破壊（高校での偏差値的学校間格差が義務教育段階にも波及）。今頃になって橋下徹はこれをやろうとし、小・中を廃校にし財源を浮かそうと画策。

度過ぎたネオリベ・グローバル資本の弊害が世界的に顕在化したため、「九九パーセントオキユパイ（占拠）運動」のうねりが、あちこちで激化している。〈魔物〉に引導を渡そうとする兆しがようやくして見え始めてきたというのが昨年の国際的な動きであった。ところが日本では、あの3・11が発生し、福島県の女性たちによる完全廃炉の脱原発運動は、十二月には盛り上がったが、全国的に見れば当初より失速している。日本において、〈魔物〉に引導を渡すには確かに脱原発は有効な契機の一つとなりうる。

これだけでは足りないと思う。そのことを暗示しているのが冒頭に挙げた二つの事

例だ。優等生・勝ち組労組の『連合』が労資一体を宣しているようでは（魔物）はビクともしない。橋下のウルトラ競争主義、学校破壊を「民主主義の進歩」と錯覚しているうちは、憲法の平等主義や人権・幸福権も危うい。

野田政権による「消費税と社会保障の一体化」も巧妙につけ込んでくる。沖縄の基地問題をも組み込んだ、真の革命的な眼差しを人民・労働者が持たない限り、（魔物）に引導を渡すことはできない。

（茨城・花井 吉宅）

◇資料と解説◇

長期の視点から作成

日本経団連『経営労働委員会報告』

日本経団連は巨大独占資本、金融資本を網羅し、財界の主張を政治に反映することを最大の目的とする財界最大の組織です。独占資本といっても鉄鋼、造船、電機、自動車のような製造業から電気、通信・運輸産業、さらには国民生活に直結するサービス・流通・卸小売業とさまざまです。産業・業種はつねに対立し抗争します。たとえば、製造業は賃金、労働者を減らすことで儲けは飛躍的に増加します。そうなると労働者賃金総額は減り、購買力は落ち込みます。サービス・流通産業の資本家たちは、「それは困る、賃金を余り削るな、分配ふやせ」と製造業に抗議します。だったら、自分たちの企業、業種、産業の労働者たちの賃金を上げればいいですね。ところがそんなことはいっさいせず、安くて手軽で、いつでもお払い箱にできるパートやアルバイトで業務がなりたっているのですから、資本はつねに安い労働力を儲けの源とするというわけです。

財界組織は経団連のほかに経済同友会と日本商工会議所があります。経済同友会は一般に経団連と同じ性格をもつ組織と思われがちですが、ちがいます。同友会は経営者・資本家のクラブ、いわば同好の士の集まりです。

今、彼らを結集している中心軸は「規制緩和・行革断行、自由貿易推進」です。ですから、経団連で利害が錯綜し主張を一本化できない課題を直線的に主張し、政府に要求するのが特徴です。したがって、彼らの主張は経団連にくらべつねに過激になる傾向をもっています。

日本商工会議所は中小企業、自営業者といった独占資本からの搾取と収奪強化につねにさらされ続ける企業と個人で構成されています。したがって、日本経団連、経済同友会とは政策をめぐって鋭く対立せざるをえないこととなります。

今、政治の焦点である消費税率をめぐる問題は流通・サービス・卸小売業、さらには小零細企業主、自営業主からすれば「もってのほか」というようにです。「春闘」による賃上げは同じ独占資本といえども抑え込みたいグループと少し上げてともというグループに「分裂」せざるをえないのです。

経団連は一月後半、春闘への対策を練るため、毎年「労使フォーラム」を開きます。そこでは元高級官僚で位人臣をきわめ大金融資本の統合研究所に天下った人物が全体

情勢を講話し、基幹産業の労務担当重役たちが議論を展開するというものです。今年、講師、パネラーとして出席したのは、経団連関係では運輸産業のJR東日本、日本郵船、電機・情報通信の富士通、NTT、製造業では新日鉄、旭化成、流通サービスでは高島屋でした。これにたいし、労働組合からはJAM、自動車、鉄・造船の基幹労連の組合幹部です。

この人選に日本経団連が賃金を抑え込むための方策をみてとることができません。まずJC（金属労協）というわけです。ちなみに日本の産業別労働組合員構成は製造業が二七一万ともっとも多く卸・小売りが一二〇万でつづきますし、主要産業別組織ではJCが公務員関係労組員一五六万を大きく超える二〇五万人になります。

公務員労組は労働協約締結権を勝ち取っていませんから、春闘の主役になりえません。中心バッターは製造業、とりわけ金属産業となります。「幹」を抑えることで賃金の下位平準化をつくる。これが経団連の戦略です。

こんな考え方から一九七四年から延々と続けているのが、今では「経営労働政策委員会報告」と呼ばれる文書です。この文書に一貫して流れる考え方は、①職場を基礎とする「労資安定帯」が不可欠、②そのために財界は「闘い」続ける、③階級的労働運動をつぶす思想原理が「生産性三原則」だったが、「労使の安定帯」が「完成」した今、生産性三原則に配慮する必要はなくなった、④今は人口減少、内需収縮、世界競争、円高でたいへん、⑤企業存続には生産性向上が至上命題、⑥資本にとって最大のコストは人件費と総額人件費管理を徹底し、法定外福利（その中心は社会保険費）の圧縮をはかり、賃上げについては企業の支払い能力で対処するというものです。

連合結成以来、大企業労組がストライキはむろん職場組合員を激励しながら、資本とたたかう姿はなくなりました。要求ではベース・アップを求めず、わずか定昇・賃金カーブ維持を求めるばかりなので、経団連はベア要求は粉碎した、定昇についても率はウンと下げてきた、賞与・一時金方式もほぼ定着したと、全面的な賃金・労働条件の引き下げに着手してきたのがこの間の特徴で、今年の『経労委報告』は、労使パートナーシップ対話深化で「定期昇給の負担の重さを労使で共有」を提唱するといったように、長期的視野で作成されているのが特徴です。

◇資料1 ◇野田内閣への要望（日本経団連二〇二二年一月二六日） 社会保障・税一体「改革」、そしてTPP

経団連（米倉弘昌会長）は二六日、野田改造内閣の発足を受けて、「新内閣に望む」を取りまとめ、建議した。全文は次のとおり。

新内閣に望む

わが国は正念場にある。欧州経済危機の拡大、歴史的な水準にある円高、グローバル競争の激化など日本を取り巻く国際経済環境は非常に厳しい。東日本大震災からの復興に加えて、長引くデフレ、財政赤字、高齢化・少子化への対応には一刻の猶予も許されない。

こうした現状を打開するためには、民間活力による成長の実現が必須であり、抜本的な規制改革、円高是正、エネルギー問題への対応や、イノベーションの加速による国際競争力の強化が急務である。

もはや課題は明らかであり、決断と実行が求められている。新内閣は、下記の重要課題をはじめとする諸課題に引き続き果敢に取り組み、わが国の将来を見据えた国づくりにより強いリーダーシップを発揮していただきたい。

記

- 1、震災からの早期復興と日本経済の再生に全力で取り組む。
- 2、社会保障・税一体改革の早期かつ着実な実現を図り、国民の将来不安を解消する。あわせて、社会保障給付の効率化・重点化に一層踏み込んだ制度改革を断行し、社会保障の持続可能性を高めるとともに、財政健全化への道筋をつける。
- 3、わが国の持続的な成長を実現するために、諸外国・地域との経済連携を強化する。特に、アジア太平洋地域のダイナミックな成長をリードするためにTPP交渉に早期に参加する。

◇資料2 ◇二〇一二年版経労委報告（二〇一二年一月二四日）

「危機を乗り越え、労使で成長の道を切り拓く」

経労委報告は春季労使交渉・協議に臨む経営側の指針をまとめたもので、二〇一二年版では、副題を「危機を乗り越え、労使で成長の道を切り拓く」とし、第1章「重大な岐路に立つ日本経済」、第2章「危機を乗り越えるための人材強化策」、第3章「今次労使交渉・協議に対する経営側の基本姿勢」の3章構成としている。同報告の主なポイントは次のとおり。

一段と厳しさを増す経営環境と国内での企業活動の維持に向けた政策課題

東日本大震災を経て、世界経済における日本企業の実存感の大きさはあらためて認識された。しかし、長年にわたって国内の事業環境が劣化してきたところに、歴史的な円高と震災後のエネルギー制約が生じていることによって、国内の事業環境は一層悪化している。

国内での事業活動を維持していくためには、企業の成長を通じた経済成長を目指す方向へ、一刻も早く政策運営の舵を切るべきである。そのため、円高の是正や法人実効税率の引き下げ、エネルギー・環境政策の転換、強化の方向にある労働規制の見直しなど国内事業環境の早期改善を図る必要がある。

グローバル経営に対応した人材戦略

グローバル展開に果敢に挑戦する企業は、これまで以上に国内外の従業員が丸となって、個人の手持てる力を最大限に引き出す戦略が必要である。

組織の一体感と求心力を高めていくため、企業理念の徹底した浸透が求められる。また、海外現地法人の経営を担う候補人材の発掘・育成に向けた基盤整備として、人材の見える化、ポスト・ジョブの見える化、人材育成の体系化を基本とした世界共通の人事ルールを構築することも重要である。

総額人件費に対する基本的考え方

総額人件費を適切に管理するうえで、(1)営業利益に占める海外比率の高まりによる収益構造の変化、(2)社会保険料や高齢者雇用の増大に伴うコスト増、積極投資の必要性――などが考慮要素となる。

所定内給与は、総額人件費管理の要となるものであり、多くの企業で定期昇給の扱いが春季労使交渉・協議の大きなテーマとなっている。定期昇給は安定的な運用が望まれるものの、企業を取り巻く経営環境が激変しているなかでは、制度の持続可能性について絶えず確認する必要がある。定期昇給の実施を当然視できなくなっている。

労使は、企業の置かれている厳しい状況を直視し、定期昇給の今日的意義やそのあり方について、多角的に議論することが求められる。

二〇一二年交渉・協議における経営側のスタンス

賃金の決定にあたっては、自社の支払能力に即して判断することが重要である。厳しい経営環境

や収益の状況を踏まえれば、恒常的な総額人件費の増大を招くベースアップの実施は論外であり、雇用を優先した真摯な交渉・協議の結果、賃金改善の実施には至らない企業が大多数を占めると見込まれる。

さらに、大震災で被災し甚大な影響を受けた企業や、円高の影響などによって付加価値の下落が著しく定期昇給の負担がとりわけ重い企業では、定期昇給の延期・凍結も含め、厳しい交渉を行わざるを得ない可能性もある。

また、一時的な業績変動があつた場合には、恒常的な総額人件費増をもたらさない賞与・一時金に反映させることが基本であり、業績が厳しい企業では従来の妥結経緯にとられることなく自社の実績に即した判断が求められる。

労働側の「賃金復元論」について

労働側は、一九九七年の現金給与総額の水準に戻すべく、昨年に引き続き、一%を目安とした賃金改善を求めている。しかし、労働側がベンチマークとしている九七年と直近の日本経済では、経済状況は大きく変化していることに加え、現金給与総額は特別給与を含むため、経済全体の動向や企業業績による変動が大きい。二〇一〇年の所定内給与および所定外給与を含めた定期給与など、特別給与を除いた賃金は上昇しており、労働側の要求根拠は薄弱である。

「労使パートナーシップ対話」の深化

企業労使が逆境を跳ね返しグローバル企業と伍して戦っていくため、今次労使交渉・協議では、課題解決型の話し合いである「労使パートナーシップ対話」をさらに深め、競争力の強化策など今後の事業展開について議論を尽くす姿勢が求められる。

二〇一二年は企業にとって生き残りをかけた正念場の年となる。労使は新たな成長の礎を築くため、従来の慣行にとられない話し合いを行うことが期待される。

組合員数一千万人割れ

―厚労省「労働組合基礎調査」から―

労働組合の現状はどうか。昨年十二月発表された厚労省「労働組合基礎調査」から、その特徴を見る。

第一は組合員数が前年の一〇〇五万人から九九六万人と、一〇〇〇万人を割り込んだことだ。組合員数が最も多かったのは一九九四年の一二七〇万、二七四万人もの減少である。

第二は組合員減少以上に組合数が減っていることだ。〇六年に二万七五〇七あつた組合は昨年二万六〇五一、たった五年で一四五六減った。

第三は二つの数字からも明らかだが二つのナショナルセンター連合、全労連ともに三万三〇〇〇人、一万六〇〇〇人減らし連合は六六九万人と七〇〇万を割り込み、全労連は六二万となった。連合の組合員数は結成時（一九八九年）七八〇万人だったから、一一〇万人減らした。

「労『使』協調」で「世界大競争に負けてなるものか、会社存続が第一」との生産性向上運動（資本主義的合理化）に協力するばかりでは増えるわけは絶対ない。

今日の「合理化」の特徴はIT・ME技術革命により資本の有機的組成（不変資本に対する可変資本の割合）は高まるばかり、さらに資本は安い資本コスト（安い労働力、安い生産設備）を求め、鳥のように世界各国に飛び立っていくのだから、労働力の需要と供給は供給が圧倒的に多くなる。そこに産業予備軍（不安定雇用労働者）を

どれだけ効率的に利用するかは雇用政策である。

小商工業主は独占企業に市場を奪われ労働者群になだれこむ。だから、政府統計では雇用者と表される労働者は増え続ける。平均五六〇〇万人として連合が全労働者に占める割合はわずか一二％、組合員の比率は組織率は一八・四％との状況。これでは労働組合の影響力は低くなるばかりである。

第四は前号『公務員労働者をめぐる諸問題』で述べられている公務員労働者の比率が諸外国にくらべいちじるしく低いこと。厚生省調査は民間組合員か公務員組合かは適用法別に―民間は労働組合法、公務員は地公法・国公法等―表される。

公務員には労働基本権とりわけ労使交渉権がないからで、公務員労働者の組合員数は民間八三四万にたいし一六〇万、組織労働者数に占める比は一五・六％にすぎない。

第五は労働者数中約四割を占めるまでになったパート労働者、労働者数中五〇％を超える一〇〇人未満の企業の労働者組織率が一％にも満たないことだ。そのなかでも唯一数を増やしたのがパートタイム一五万人増の七二万六〇〇〇人。パートタイム中に占める比率はわずか三％前後、組織労働者比では七・八％にすぎぬ。

以上が悲しいけれど日本の労働運動の状況である。

こんな悲しい状況をどう改善するか。第一は組織化への総力結集である。とりわけ重要なのは正社員減少に歯止めをかけることである。

サマータイム問題多し 実施反対

組合のサマータイムアンケートで、業務支障や超過勤務の潜在化の実態、節電効果への疑問を多くの組合員が抱いていることが、改めて明らかになった。人員職場要求にも反対の項目があがっており、県職労・兵従労組本部専従者で交渉を行い、来年度の実施はしないよう強く当局に求めた。

業務支障を感じた人は全体で三割弱であるが、健康福祉事務所では三割を超え、A B勤務に限って言えば四割を超えている。

また、在庁申請が認められていたのは六割ほどで、土日や持ち帰りで賄う、補助簿に記載できない超過勤務の実態も確認された。マスコミで超過勤務が減ったことが成果として取り上げられていたが、「腹立たしい報道であり実態と乖離している」と当局を指摘した。

節電対策についても六割超が疑問視していた。全体では四割以上が「サマータイムは問題が多く来年は導入すべきでない」と回答しており、当局には来年度は実施しないよう強く求めた。

当局からは、当局アンケートでは肯定的な意見も多く、一定の効果があつたとする一方で、土日出勤等があつたとの認識等も示された。

来年度については今後の電力の需給状況や社会情勢を考慮し、今年度の実施の評価、検証を踏まえて組合とも協議するとの回答があつた。

(兵庫県職員組合「新聞ひょうご」)

ハイサイ！　今回は「ウチナーヤマトグチ」に挑戦！

ーオキナワだより④ー

オジイになる　今年もよろしく！　って、もう一月下旬やし。心配ないさ、沖縄は旧暦（明日が元旦やさ）が併存してるところが多いからね。糸満では旧暦の正月が盛大に行われているっていうし、子どもたちはお年玉も二回ももらえるらしい。でーじ（超）うらやましい。親やオジイ、オバアは大変やけどね。

去年は、日本社会にとって特別な一年やった。わったー夫婦にとってもそうだったさ。なんせ、一世代アップしてついにオジイとオバアになつてしまったからね。孫が一気に二人も増えた。家族が増えるって、それだけでうれしいことだって素直に思えるのは、やっぱり震災や原発事故のことがあるからかね。子や孫を守っていく大人の責任も、強く感じるわけさ。

二〇歳（はたち）の記憶ー「憲法」との出会い　一月九日は「成人の日」やった。沖縄の成人式というところ、「本土」では荒れる様子が毎年報道される。わん（私）も「国際通り」に見物に出

かけるかって思ったけど、那覇市や沖縄市には、何でも「ギャラリー（期待族）」を取り締まり対象とする条例があるとかで、いい年して逮捕されたなんて様にならんからね、遠慮したさ。

身近にいる沖大生たちも四人に一人は成人式を迎えたことになる。で、もう四二年も前になるけど、わんの二〇歳（はたち）の頃を思い出したわけさ。あの頃は「成人の日」は一月一五日と日付で決まっていたから、一九七〇年一月一五日がわんの成人式やった。当時の時代背景もあってね、東京の渋谷区に住んでたけど、区の主催する式典にはハナから出る気がなかった。官製の成人式なんて拒否するって感覚やったけど、サークルの同僚と先輩の下宿で飲み明かして、実際のところはただの酒飲みしてたわけさ。

少し古い話だけ付き合っただけ。わんも一応大学二年生やったけど、六八年から六九年にかけて中央大学でもストライキや学生運動が続いて、まだ授業も行われてない状態やった。まあ、そんなところから抜け出したって気分もあつたかね、六九年一月から七〇年三月まで岩手県の山間僻地の冬季分校で代用教員をしようとした。小学生一年〜六年まで二〇名が一クラス（単級っていつてたさ）で、教員はわん一人やさ。「成人の日」とか成人式って聞くと、あの頃の記憶をどうしても思い起こしてしまうわけ。六九年の年末には総選挙があつた。争点は「安保と沖縄」。七二年復帰の少し前になるね。結論からいうと、わんは初めて手にした選挙権を行使せず棄権したわけさ。

住民票は東京に置いたままやったから、投票するには東京に戻らんばならんかった。二月の職員会議の後、本校のA先生（岩手県教組の活動家やったと思う）から予想もしなかった声をかけられてね。

「毛利先生は、どこ選挙権置いてあるっすか？　東京だば、選挙しに帰んねばなんねえすべ」って。それから「選挙権は何人も侵すことのできない基本的権利だ」

憲法を教える教師自身が棄権はよくない”。“投票できるよう分校の体制を作るのは、校長の責任”。“東京への旅費は校長や教頭にも掛け合ってみるし、ダメなら教員仲間でも何とか考えたい” などなど、熱心に話してくれたわけさ。でも結局のところ、わんは校長に相談する勇氣もなく棄権してしまった。

投票日は一月二七日(土)で、一学期の終業式やった。正月休みの帰省のために、この日わんは分校から下りて本校の宿直室に泊まっていたわけさ。即日分の開票が進むにつれて、A先生はじめ何人かの先生が宿直室に集まって、こたつを囲んだ。

「農民はこれだけだまされても、まだ自民党に入れるんか！」って、A先生はこぶし握りしめたまま、テレビの開票速報を見つめていたさ。わんは、顔を上げることもできんかった。

なんか、重たい話になってしまったけど、これがわんの初めての「憲法」との出会いだったって思うわけさ。今もトゲのようにして残る思い出やね。

環境影響評価書(辺野古アクセス) 今年は「復帰」四〇年の節目やけど、そうでなくとも今年が沖縄にとつて大事な年になることを実感させられたのが、年末から年始にかけての環境影響評価書(辺野古アクセス)騒動やさ。わんもいたたまれなくてね、暮れの二六日だけやったけど、県庁前の阻止行動に参加してきた。

焦点になってる評価書の提出を宅配業者に委託したり、未明に運び込んだり、こんなこと他県に対してだったらするかね。完全に沖縄蔑視だよ。“犯す前に、犯すって言うか”とか暴言してやめさせられた局長がいたけど、「犯す」ってこういうことだったのかって、納得もしたわけさ。

オスブレイ配備は後出しのルール違反、希少種動植物の調査期間は短すぎ、埋め立て用土砂の調達先も決まっていっていうさ。泡瀬の埋め立てもそうだけど、陸地は切り崩せないから海中を浚渫(しゅんせつ)して土砂を調達するらしい。浚渫されるところのアクセスはどうなってるば？

辺野古アクセスのやり直し裁判の先頭に立っている沖縄大学の桜井先生(環境アクセスが専門)が、「本来、環境を守るためにあるアクセスの制度が、新たな基地を造る口実として利用されるのは許せない」って話してたけど、本当やさ。

市民からの強い抗議と公開要求を受けて、沖縄防衛局は評価書(七千ページの超大作らしい)をHPで公開してる。で、覗いてみたわけ。そしたらファイルが何と二五〇個！パソコン壊れるやさ。どこに何が書いてあるかもさっぱりわからん。こんな公開っていいえるか。

普天間基地の「移設」とか「代替」っていわれてるけど、辺野古に計画されているのは、「普天間+嘉手納+ホワイトビーチ」(これ辺野古のテント村でTさんから教えてもらった表現だけど、でーじわかりやすい)の巨大最新鋭基地やさ。それも、沖縄米軍基地の半永久的運用を保証する代物さね。

沖縄県は、評価書への住民意見を書面で受け付けることも検討しているっていうから、わんもひとつがんばって書いてみるかね。

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会@沖縄大学 悪いことばかりではないよ。うれしい話もしようね。

昨日は、鎌仲ひとみ監督の「ミツバチの羽音と地球の回転」の沖縄大学上映会やつた。原発とエネルギー問題を扱ったドキュメンタリーやさ。学生が主体の実行委員会で取り組んで、百名を超える学生と市民の方が来てくれた。託児所も二十人近い盛況やつたから、スタッフも含めると百五十人近くだったかね。

中心になったKさんは、三歳の男の子育てながら大学に通ってるがんばり屋さんだわけさ。で、わんはどうみても変なおじさん（オジイだろ）学生さね。「いっしょにやりませんか！」って誘われたときは、しに（とつても）うれしかった。一ヶ月間大変やつたけど、沖縄に来て一番充実した時間だったって思うわけさ。

映画会では、福島から母子で避難している方の話も聞くことができてね。家族が分かれて暮らす不安：自分たちだけ避難していることへの複雑な思い：募（つ）るふるさとへの思いの一方で、福島に戻れるようになったとき、はたしてこれまでと同じように受け入れてもらえるだろうかという不安：聞きながら本当に切なくなつたさ。

「ミツバチの羽音と地球の回転」の舞台は、瀬戸内海の福島やさ。話は来月のことになるけど、「第十五回許すな！憲法改悪・市民運動全国交流集会」広島」の案内のなかに、祝島フィールドワークの文字を見つけてね、迷わず申し込んだわけさ。

映画の主人公―祝島の心ある人たちとの出会いが楽しみなさね。もうひとつ、映画のなかで作業船からマイクで「第一次産業だけで生きていけるとお思いですか：年寄りばかりの島に未来がありますか：原発は二十年後三十年後の未来を約束します：海は絶対に壊れません、安全です」って、上関原発に反対する祝島の住民に呼びかけていた中国電力、彼らがいま何を言っているかもしっかり確かめてきたいと思ってる。

（毛利 孝雄）

◇ 読者からのおたより ◇

「伊万里原発をとめる会」 職場では反原発春闘になっていませんが、「伊万里原発をとめる会」では会員をつのっています。 （松山市・N）

編集部より 東海第二原発のある茨城県東海村の村議選（定員二十人）では、友人の反原発候補が四位で当選。反原発議員は一名ふえて八名へ。村長先頭に「東海原発とめよ」。

心残り 先日、教組の集まりがありました。校長先頭に「東海原発とめよ」といって、底に流れているものも押し寄せてくるものも、全国と本質的に同じです。神戸は一見のどかですが、底に流れているものを整理してポチポチやっついこうと思つているのですが、若い人が増えているのをつなげてないのが心残りです。 （神戸市・T子）

編集部より 極右・反動屋をメディアは「改革」者と賞揚。ボケ老人が「第三極めざす」とタレント弁護士にすり寄り。まさに気狂いざたとはこのことです。

大阪 大阪の状況などに、この国がなんとかなる見込みはなくなってきました。 （東京・N）

編集部より 悲観するにはおよびませんよ。タレント弁護士は大阪でのいつもの現象。少し前まで東国原とかいうタレント知事が「おれを自民総裁に」なんてたわけたこといってた。

再任用 再任用労働者となって二年過ぎつつあります。週四日の労働ですが賃金は約二分の一となり、活動費捻出がきびしいところです。六〇歳過ぎて働けるだけマシ？との声で同情されず、なかなか改善要求となりません。残金カンパです。 （自治体労働者・H）

編集部より カンパに感謝です。先日、自治労中央委員会傍聴しました。執行部バタバタしてますね。どうしてもつと腰落とせないのかしら。日本中どこでも同じですけれど。

